【4】神道護摩私大事

写本1帖

〔書名よみ〕しんとうごましだい
〔著編者〕未詳　〔写刊年次〕明和八年（一七七一）

〔外題〕ナシ（題簽剥離痕あり）
〔内題〕神道護摩私大事
〔その他題〕ナシ

〔残欠状況〕全　〔保存状況〕小破（糊離）　〔装訂〕折本装　〔丁数〕二八丁　〔本文用字〕漢字　〔一面行数〕五行　〔表紙〕本文共紙　〔法量〕縦一二・五糎×横八・三糎　〔料紙〕楮紙（雲母引）
〔界線〕押界（界高一〇・一糎／界幅一・七糎）・天罫のみ墨界あり
〔書入〕朱書（首頂点・合点）　〔印記〕「長濟藏」（朱・単郭・陽刻・長方）　〔備考〕諸師1函23。義観函105『神道護摩私大事』の粗本と思われる。

〔奥書〕〈巻末〉
元和五年三月吉日於勢州山田渡
田会書之
城西嵯峨（嵯峨）法輪寺住
　鷲峯山新蔵院文俊
　　良優
鷲峯山新蔵院ニテ而
伝授砌書写　尭朝
　盛運（春秋廿四）
山城綴喜郡玉水西福寺
神祇伝燈大阿闍梨権大僧都
活済上人
明和八（辛卯）歳十月廿三日
京六波羅密寺隠居智門法印
以所持次第校合畢

〔解題〕

本書『神道護摩私大事』については、すでに円覚寺第二十六世・義観相伝本（義観函105）の解題が本報告書・第二集【19】（執筆・渡辺麻里子）に提示されている。当該解題に示されている通り、義観本は以下の明治三年（一八七〇）最勝院妙海より義観が伝受・書写した旨の奥書を持つ伝本である。

（朱書）明治三（庚午）歳六月廿九日
　授与　秀海
弘前
金剛山光明寺最勝院院家
伝燈大阿闍梨権大僧都妙海
明治三（庚午）歳六月廿九日
　義観房
　秀海一日ニ而
　書写之

前掲【3】『三元十八神道次第』が妙海より第二十四世・尊岸に伝授されたのと同様に、本書は同じく妙海より孫の義観へ伝授された御流神道玉水流の相伝書である。その点、義観本は幕末明治期にあってもなお代々と玉水流が真言寺院圏において相伝され続けていた経緯を示唆してあまりある伝本である。

かたや、本書『神道護摩私次第』はその奥書を有さないが、おそらく

は義観が書写した祖本であり、併せて伝授された明和八年（一七七一）写本であると推察される。元和五年（一六一九）に伊勢山田渡会にて書写され、京都・嵯峨法輪寺新蔵院（文俊・良優）へと伝えられた一本が、転写（尭朝・盛運）を経て、南山城・西福寺の活濟へと伝授され、明和八年に六波羅蜜寺隠居・智門所持本により校合された経緯が知られる。智門については、【3】『三元十八神道次第』の伝授識語に名を載せる「智積院一老智門法印」と同一人物とみてよく、同様に御流神道玉水流の流れを汲む伝本であることは紛れもない。

さらにいえば、本書の表紙に捺された朱印「長濟藏」も見逃せない。長濟は玉水流の開祖・活濟由来の西福寺における玉水流の正嫡を受けた第五世であり、爾後、玉水流の本流は智積院へと受け継がれた。つまり、まさしく本書は西福寺における法脈を直截的に揺曳したまま、智積院経由で相伝された玉水流の歴史を確かに物語る伝本にほかならないからである。ちなみに、長濟由来の資料としては、他に『払湯釜住連内入大事』（印信函１８３）奥書「天保六乙未（一八三五）初夏日授之／神祇伝燈大阿闍梨法印長済」、『供物紙』（印信函１９２・素紙七枚入り）の包紙に朱印「長濟藏」がある。

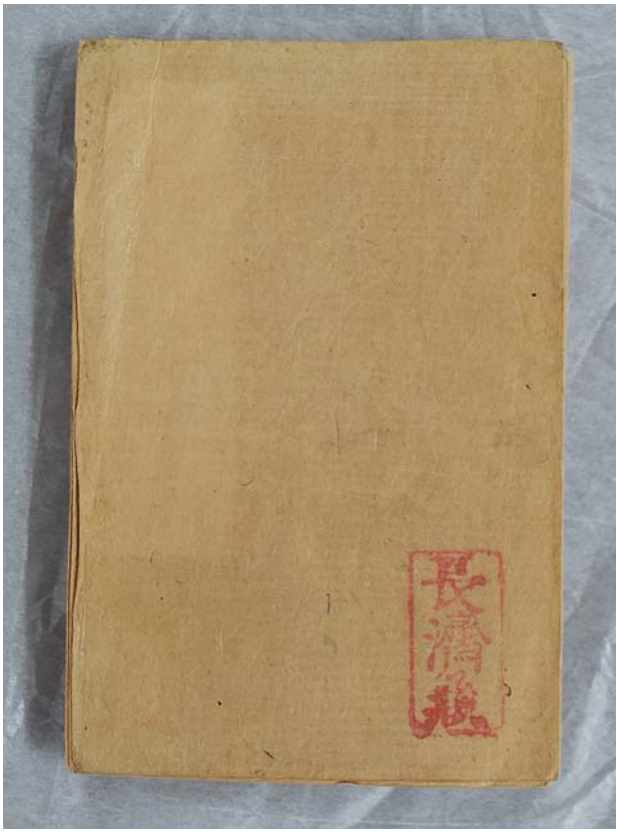
（中山一麿「西福寺の歴史」より転載）

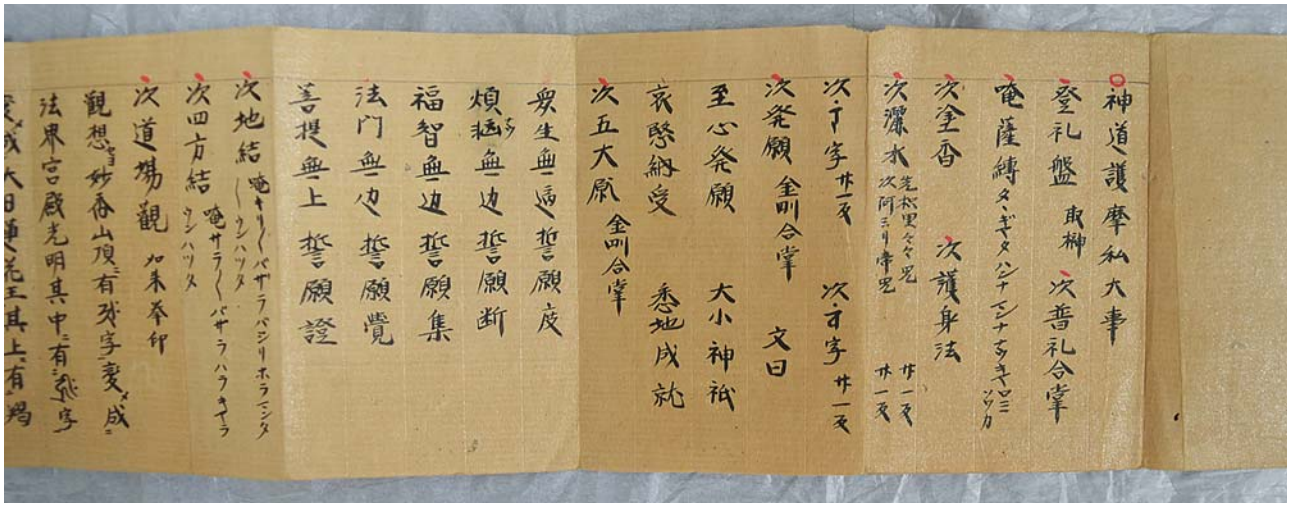
そのような伝本をもとに、妙海を介して義観本が作られたわけであり、円覚寺に所蔵された『神道護摩私大事』両本の存在は、まさしく江戸中期より幕末明治期におよぶ御流神道玉水流の隆盛を今に伝える点で、日本宗教史上においても、きわめて貴重な資料的意義を有するものである。

〔参考〕

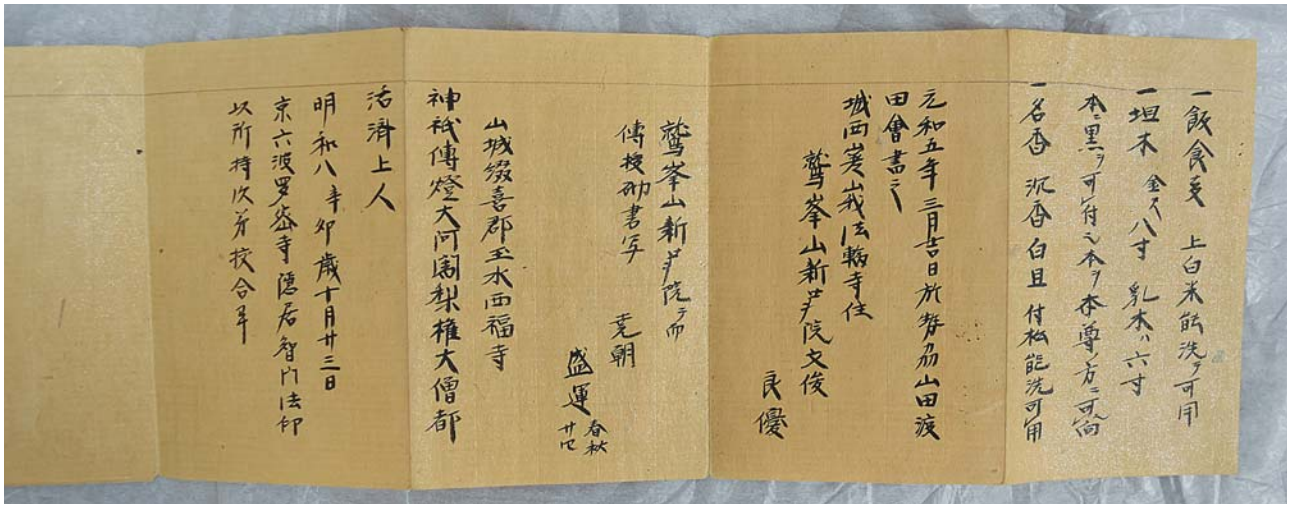
・特設展示「南山城井出町西福寺神道灌頂資料」（国文学研究資料館、二〇一四年）
・シンポジウム「南山城と神道灌頂—井出町西福寺所蔵資料をめぐって」（『仏教文学』第四一号、二〇一六年四月）所収、中山一麿「西福寺の歴史」／向村九音「西福寺と椿井文書」／伊藤聡「西福寺の神道灌頂」／鈴木英之「神道灌頂道場図の復元」
・ＨＰ「橘氏ゆかりの御寺　遍照山西福寺」　http://henjozan.xsrv.jp/「神仏習合：玉水流について」
http://henjozan.xsrv.jp/category5/entry10.html「神仏習合：玉水流法脈」
http://henjozan.xsrv.jp/category5/entry11.html
・『最勝院史 図版編』壹・貳（最勝院史編纂委員会、二〇二〇年）
・『寺院文献資料学の新展開』第一〇巻『神道資料の調査と研究Ⅰ　玉水流特集』（伊藤聡・編、臨川書店、近刊）

（原　克昭）





神道護摩私大事
登礼盤　東柳　次普礼合掌
奄薩縛タ〻ギタ〻ハンナ〻ヒナ〻ヒナ〻ヒマニ〻ウ〻カ
次塗香　次護身法
次灑水　先於里々々兒　次阿三り摩兒　サ一反　サ一反
次子字　サ一反　次才字　サ一反
次発願　金剛合掌　文曰
至心発願　大小神祇
哀愍納受　悉地成就
次五大願　金剛合掌
衆生無辺誓願度
煩悩無辺誓願断
福智無辺誓願集
法門無辺誓願覚
菩提無上誓願證
次地結　奄キリ〻〻バザラバシリホラ〻シタ〻〻ハツタ
次四方結　奄サラ〻〻バザラハラキヤラ〻ハツタ
次道場観　如来拳印
観想妙香山頂有発字変成
法界宮殿光明其中有悉字
変成大日種花王其上有鬱



一飯食　上白米飯洗ヲ可用
一坦木　金ヲ八寸　乳木ハ六寸
本ニ黒ヲ可付ベ本ヲ本尊ノ方ニ可向
一名香　沉香白旦　付松能洗可用
元和五年三月吉日所奉加山田渡
田會書ヲ
城西美山我法輪寺住
鷲峯山新尹院文俊
良優
鷲峯山新尹院ヲ而
傳授加書写　光朝
盛運　春秋　サ七
山城綴喜郡玉水西福寺
神祇傳燈大阿闍梨権大僧都
活潤上人
明和八年卯歳十月廿三日
京六波羅密寺隠居智門法印
以所持次第校合了